経済概況

金融政策レビュー – 2025年5月

2025年5月28日（水曜日）

「金融政策委員会は本日、政策金利（OCR）を25ベーシスポイント引き下げて3.25%とすることで合意した」

理由：

「年間消費者物価上昇率は金融政策委員会が目標値とする1.0%～3.0%にある」

明るい側面は：

「世界的な関税の引き上げによる世界経済の成長鈍化が予想される一方、輸出価格の上昇と最近のOCRの引き下げがニュージーランド経済の緩やかな成長を支えると考えられる」

一方、世界は依然として軟調：

「委員会は、2月の声明以降、一部の主要経済国における保護主義政策への転換を反映し、世界の経済活動の予測が軟化していることに留意した。中国と米国の経済成長予測は、両国間の関税引き上げの規模を鑑みて下方修正されている」

50bpの利下げは議論されず

「委員会は、OCRを3.50%に据え置くか、3.25%に引き下げるかを選択肢として議論した」

まとめると…

「5月28日水曜日、委員会は2つの選択肢について投票で採決した。委員会は5対1の多数決でOCRを3.50%から3.25%へ、25bps引き下げることに合意した」

コメント：

記者会見に先立って新総裁は議論した選択肢と投票について開示し、存在感を示しました。

投票権を持つ委員のうち5人が25bpの利下げを支持。一方で、この投票においては、反対派がOCRを3.50%に据え置きたい意向であったことが読み取れます。50bpの利下げについては議論すらされなかったようです。

また、企業や家計全体の予想インフレ率が上昇する一方で、コアインフレ率が低下していることや、経済に余剰生産能力があることが強調されている点も興味深いところです。関税や地政学的な不確実性により、世界経済の成長も鈍化傾向にあり、ニュージーランドの中期的なインフレ圧力が低下して、国内の回復にのしかかってくると予想されています。1点、肯定的な要素と言えるのは、これまでの利下げサイクルの影響（累積2.25%のOCR引き下げ）がまだ完全には現れていないことです。

RBNZ（ニュージーランド準備銀行）の予測に関しては、OCRの予測と市場価格の広範な再調整が重要なポイントです。OCRが年末にかけて2.75%で底を打つか3.00%で底を打つか、これはどちらもあり得ると見られます。RBNZはまた、2026年までベースを維持し、2027年に暫定的な利上げサイクルを予定することも示唆しています。2月の予測と比べると今回は、今年のGDP成長率にわずかな鈍化が示されている点も目に留まります。

マーケットへの影響：

発表直後の市場の反応は非常に落ち着いたものでしたが、RBNZの予測が過去5年間のどの時期よりも市場の予測と一致していることを考えると、特に驚きはありません。

NZドルは対米ドル、クロスとも0.1%～0.2%の範囲で堅調に推移。スワップ価格はイールドカーブ全体で3bps～4bpsとこちらも堅調に推移しました。

概ね、中央銀行のトップとして従来の定位置に回帰したようにも見えますが、新総裁は着実なスタートを切ったと言えるでしょう。

＊日本語翻訳文と英語の原文に相違がある場合には、原文の記載事項を優先します。

BANCORP
BANCORP TREASURY SERVICES LIMITED
Barrington TREASURY SERVICES
Barrington ASSET CONSULTING
BANCORP
BANCORP CORPORATE FINANCE LIMITED